

投影資料3  
仙台市医師会

# 仙台市のオンライン診療の 普及に向けた課題について

仙台市医師会 会長 安藤健二郎

# 今回の実証実験

過疎地の医療をオンライン診療でカバーできないか

**D**octor to **P**atient with **N**urse

オンライン診療の機材を積んだ「診療カー」をモデル地に派遣し

看護師が医師のかわりに機器を使用して

患者の声、表情、姿とともに生体情報(心電図 聴診音 超音波画像)

を遠くにいる医師に伝える

# 検証内容と課題

円滑に診療が行える質の良い画像が得られるか？

ほぼできたが、実用化に向けては未だ課題あり

## <課題>

- 1 画像の解像度 滑らかさ
- 2 各検査機器の通信はそれぞれでことなり煩雑
- 3 聴診音の音質

# 診療カー 運用可能に？

令和5年5月18日 厚労省発出通知

へき地等において特例的に医師が常駐しない  
オンライン診療のための診療所の開設について

へき地等では、条件が整えば、例えば公民館の駐車場に  
診療カーを停めて「臨時オンライン診療所」として保険診療が認められる

# 実験中の気づき

訪問看護師（あおいくま訪問看護ステーション石田氏）による指摘

過疎地ではもちろんだが、街なかの在宅患者にも利用価値が高いのでは？

## 診療カーの機器を「持ち込めるサイズ」にまとめる

在宅患者の多くは寝たきり 診療カーに乗ることは難しい

看護師がベッドサイドに持ち運べる機材一式が必要

# 小型化も仙台市の将来の医療に役立つはず

仙台市は今後、在宅医療の拡充が必要

(仙台市における医療のあり方に関する検討会議)

在宅患者の状態を医師と看護師が共有するツールとして

## 遠隔聴診へのこだわり

生体音(心音、呼吸音、腸雑音)を聴くことは極めて重要！

聴診器で聴く生体音をそのまま遠隔地に伝えたい

複数の医師で同時に聴診することも可能になる



# 次の目標

- 1 高品質の診療カーを完成させ、実装させる
- 2 ひとつの通信で高質画像と各種検査データを伝送する
- 3 聴診音データをより明瞭で大きな音量で伝送する
- 4 小さくまとめた、キャリアブルなシステムを開発する